

第31回甲賀市水道事業審議会 概要報告

1. 開催日時 平成28年11月25日（金）
午前10時00分から午前11時30分まで
2. 開催場所 甲賀市役所甲南庁舎 1階 第1会議室
3. 議 題 審議
①水道事業経営戦略策定について
②水道事業報告
・平成28年度9月末業務状況概要について
・アセットマネジメントについて
会議内容の公開、非公開について
4. 公開又は非公開の別 公開
5. 出席者
委 員 松山委員、林委員、村山委員、神山委員、森田委員、
青木委員、風岡委員、大治委員、植西委員 以上9名
岩永市長
事務局 上下水道部 西野部長、橋本理事、小嶋次長
上水道課 富田課長、藤田課長補佐、山川課長補佐
上下水道総務課 奥田課長、緩利係長
6. 傍聴者数 0人
7. 会議資料 資料1 経営戦略策定について
資料2 平成28年度9月末業務状況概要について
資料3 アセットマネジメントについて

8. 議事の概要

○出席委員数の報告

出席委員は9名で、委員の3分の2以上の出席であることから、甲賀市水道事業審議会条例第5条第2項の規定により、会議が成立していることを事務局から報告。

○審議

事務局

水道事業経営戦略策定について資料1に基づき説明
平成28年度9月末業務状況概要について資料2に基づき説明
アセットマネジメントについて資料3に基づき説明

(質 疑)

委員

アセットマネジメントに関して、資料に「統廃合を適切に計画する」と書かれているが、水源地が分散している状況や、地域の地形や分布から考えると難しいと思うが、方法は考えておられるか。

事務局

その点も踏まえて検討したいと考えております。

委員

前回の審議会で、水源地の管理状況について、委員から、整理整頓、衛生管理の徹底について指摘があった。命にかかわる水源であるので早急な対応が必要であるが、改善されているか。

事務局

その点につきましては改善しております。

委員

現状把握をきちんと行い、改善がどのように進んだかを、例えば目で見える形でしていく方が良い。現場で作業をされている方もやりがいが出るし、私たち委員もこの場では、どのように改善されているかわからない。

事務局

本日の会議で、審議の後、次第の「その他」で、牧浄水場の改善状況について報告させていただこうと考えていました。今お配りした写真ですが、上の部分が前回の審議会後、すぐに職員で確認した時の状況です。その後、施設の維持管理を委託している業者に指示をし、改善した状況が下の写真です。業者に委託している部分もありますが、我々もしっかり指示ができていなかったということを大変反省しています。

なお、施設の維持管理はプロポーザル方式の3年の長期契約としております。それが今年度3年目となり、来年度に向けて改めて契約をしていくことになるので、その際の仕様書に記載することとします。

委員

随分整理され、大変良いと思う。「指定席化」という言葉はご存じと思う。管理者が変わっても、きちんと維持できる方法にしてほしい。

委員

アセットマネジメント策定について、水道施設の改良は、下水道事業と関連する。下水道の補償の有無で予算措置が大きく変わるが方針を聞かせてほしい。

事務局

下水道事業と連携をとりながら更新を進めたいと考えています。

委員

施設の統合について、信楽は水源地を一本にするというのは難しいし、経費が増大することを十分に考える必要がある。

事務局

信楽は信楽の中で水源を確保したいと考えています。

委員 信楽は水源が非常に弱く、さらに水量も不安定。今年の夏は降水量が少なく、水が枯れないか心配していた。天候が及ぼす影響も十分に注意してほしい。

委員 水質という見えない部分の管理と、施設の管理は複式簿記的な考え方をどんどん取り入れて管理をしてほしい。今回、アセットマネジメント策定で、石綿管等の老朽管の実態を徹底的に把握し、それに対してどう改良を進めていくか、水質をどう維持していくか、という観点から見直してほしい。

委員 甲賀市は土山から日野町の一部へ水道を送っている。アセットマネジメントでは日野町とも連携する必要がある。

委員 三重県から水をもたらしているのは甲南町の上馬杉だけか。

事務局 はい。3軒です。

委員 有収率が落ちている理由をもう一度説明してほしい。

事務局 今年は9月が暑く、9月の水量が大きく伸びており、10月分の水道料金が大きく伸びました。有収水量は8月末の検針データで半期分とし、一方で配水量が一番多い時を超えた9月末の数値で半期分としているため、その誤差と推測しています。

委員 3ページの収支計画に10年先の推測があがっているが、これはアセットマネジメント策定後、再度見直しをするのか。

事務局 現段階の収支計画は、アセットマネジメント策定後、建設改良費について、年間10億円で試算していますが、アセットマネジメントをした段階で、算出された更新費用に基づき、収支計画に反映します。基本的には10億円を超えない額で進めていきたいと考えています。

委員 この収支計画は、収益的収支の見込みを前提にして建設改良費を計算されているのではないか。後回しにできない、してはいけない事業があるはずである。その上で収入の見込みがどうなのか、できないなら料金に反映させなければいけないという観点も必要である。計画段階においては、本当に必要なものは何かを先に積み上げてから削るものは削ることが必要である。

委員 人口減少に対する施策は色々なされていくと思うが、人口減少により、給水収益は減少していく状況にある。一方、先程から言われているように、老朽管等の更新費用は、人口増減に関係なく待たなしで必要となる。2、3年毎にローリングされると思うが、人口減少を見据え、必要なものは先に整備していくべきである。

委員 信楽の水源について、大戸川ダム建設が動き出したが、ダムの水を利用できないか。

事務局 大戸川ダムは凍結から再考しようとして動き出しているというところですが、あくまでも大戸川ダムは治水ダムということで動きだしており、新たな用水の水利権を取得することは難しいと思います。

委員 前回、信楽の施設を視察した際、信楽まで随分距離もあり、高低差もあるので確かに大変である。

委員 信楽には大きな断層が2本か3本有り、地震が起こった場合、その影響で水脈が変わる可能性もある。突如水源が枯れることがないように、アセットマネジメントは、断層の勉強も必要である。

減価償却費の見込みについて、同じ数字が置かれているが、建設改良費が増加すると減価償却費も増加する。投資分と減価償却分のバランスも考えないといけない。

どの自治体においても人口減少の問題が言われているが、もっと人口が少なかった時代にお寺が建てられ、立派な学校が建設された。このことから考えると、経費の節減をして投資をしていくことが大事である。人口が減ったから諦めるのではなく、前向きに取り組んでほしい。

委員 資料にある給水人口の予測は、甲賀市全体の予測であると思うが、私の住む地域で、20年先の人口動態をシュミレーションしてみると、現在の人口が半分になり、ほとんど65歳以上になる。甲賀市全体を見ると同時に、地域ごとの傾向も見る必要がある。

市長 水道事業をはじめ、地域づくりに関わることまで、諸先輩方のご意見をいただき、非常に感謝をいたしております。私自身も地域の有り方、人口減少に向き合うために何をすべきか、皆様方のご意見をしっかりといただきながら、物事を多極的に、相対的に見ながら市民の皆様方の安心安全、そして甲賀市の発展に取り組ませていただきたいと改めて認識いたしました。今後も変わらぬご指導をいただきますようによろしくお願ひ申し上げます。

○会議内容の公開又は非公開について

事務局 本日の会議内容の公開・非公開は、本日配布した資料等にも個人情報等の非公開にしなければならない案件は含まれていませんので、すべて公開としたいと思っております。なお、前回同様、議事録の発言については個人名ではなく、委員として記載して公開させていただきます。